

グローバル広報によるマルチステークホルダー・ エンゲージメントの重要性

—ブランズウィック・グループによる講演会を開催—

2022年1月20日

講師：河本 孝志 ブランズウィック・グループ 日米事業統括ディレクター（ワシントンDC）
ニック・ライス ブランズウィック・グループ ディレクター（ニューヨーク）



経済広報センターは1月20日、「グローバル広報によるマルチステークホルダー・エンゲージメントの重要性～5つのポイントと事例紹介」と題するオンライン講演会を開催した。英大手戦略アドバイザー会社ブランズウィック・グループのワシントンDC事務所日米事業統括ディレクターの河本孝志氏と、ニューヨーク事務所ディレクターのニック・ライス氏が登壇。会員企業広報責任者など約70名が参加した。

河本氏はまず、社会課題の複雑化やステークホルダーの多様化等が進むなか、企業が戦略的に多様なステークホルダーに関与し、対話する必要性が高まっていると指摘。この傾向は海外で顕著であり、マルチステークホルダーと協働する際には、「どこに軸を置き、どのような基準でステークホルダーに優先順位をつけるか。そのうえで、どのように情報を収集・分析し、誰が意思決定をするのか」といった仕組みを社内で持っておくことが不可欠だと強調した。

ライス氏は、マルチステークホルダーと対話を進めるうえでの課題とベストプラクティスについて説明。環境問題や社会問題でさまざまな意見がぶつかり合うなか、企業もそれらの課題に対する見解を示し、具体的なアクションにより結果を示すことが期待されているとした。さらに、①自社ビジネスの変革②社会に対する意見表明③システムや業界に対する変革の働きかけ——の3点についてリーダーシップを発揮し、実際にインパクトを与えた事例をベストプラクティスとして紹介した。

以上

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2 経団連会館 19 階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。